

浦安よみうり

県立浦安高

卒業生による講座

市職員や保育園長など
生徒に“エール”を送る

県立浦安高校(菅井信校長、生徒四百四十七人)で、先輩の活躍や生き方を後輩に紹介する「卒業生による講座」が開かれた。生徒にエールを送ってもらい、生徒に自

信と誇りをさらに高めてもらおうと、同校が企画した。

平成十六年度に県から自己啓発指導重点校の指定を受け、よりよい学校づくりに努めるなかで地域との結びつきを深め、同窓会や浦安市役所、浦安市教委の協力を得て、昨年十月から全十回の講座を「総合的な学習の時間」を使って開いている。

今回は、同市役所職員や同市立保育園長、同市立中教頭などが、浦安や浦安高校の歴史のほか、ごみや交通(自転車)、子育て、男女共同参画、留学生、まちづくりなどさまざまな問題を、浦安市の実情を通じて紹介し

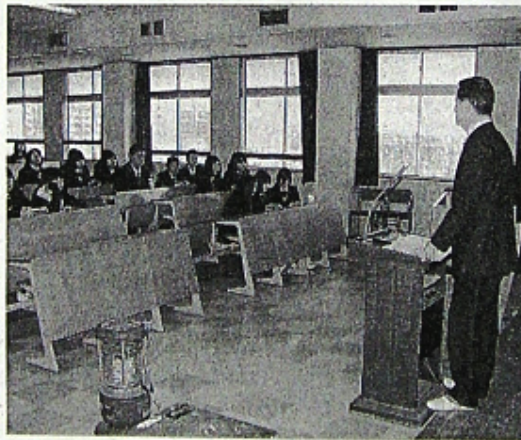
受けてもらい、生徒に自

ている。

今月八日には、同校を昭和五十二年に卒業した三期生で、同市社会福祉課に勤務する大塚慶太さんが、昔の浦安の状況や発展、市の展望などを紹介。高齢化や介護など同課ならではの課題や展望も語った。あわせて、「魅力的な浦安市のために必要なこと」「介護従事者を増やすために必要なこと」など、若者の目から見たポイントも示し

てもらえよう求めた。

同講座は、歌手のEXILEや百人一首、ロボット、ソーシャル・スキル・トレーニング、ごみ拾いなど教諭が一つずつ受けもつ十三講座のうち



後輩に浦安の歴史や卒業後の生活などを語る

ちの一つ。受講生は全学年から六十八人。二年生の佐久間加奈さんと白石彩花さんは「ほかの講座話など、いろいろなことが聞けた。話の仕方もある人、面白い人、心にとめていた。」と

たくさんの卒業生が講座を一度に受け持つ、あまり例のない授業を企画した同校。田中賢司教頭は「生徒が各分野で活躍している先輩の姿を通じて生き方を学んでほしい。そこから、地域に愛される浦高ブランドをさらに高めていきたい」と話す。最終回の二十一日には、全校生徒を対象に、元県議で浦安市社会福祉協議会長の宇田川敏之助さんが講演を行う。